



獣医師の皆様へ

2025年4月
株式会社オキシキャリア
代表取締役 山口智宏

弊社事業の紹介とご参加のお願い

今やペットは、「家族の一員」と言われる存在になり、これに伴い獣医師及び動物病院も増加の一途をたどっています。しかしながら、動物の治療に際しては、「ヒト」を対象としたものでないが故の制約が存在しているのはご承知の通りです。動物医療には、ヒト医療のような献血システムがなく、輸血に必要な血液が日常的に足りない状況にあります。輸血をすれば助かるのに血液が足りず間に合わない、少なからずそんな経験をされているかと思います。

弊社のコア技術「ヒト用人工赤血球」は、現在、国の予算で治験途上にあります。人の献血システムでも社会の高齢化に伴い献血量が減る一方、高齢者の増加に伴い様々な疾患で輸血の必要性が増え、対応策として、人工赤血球の研究開発がおこなわれています。弊社は、公表データから、この技術を動物に応用できると判断し、「動物用人工赤血球」の実用化に乗り出しました。開発は順調に進み、現在、試作品を製造、有効性と安全性の確認試験を実施する段階にまで達しています。

「動物用医薬品」として農林水産省から承認を得た後には、動物病院に常備して必要な時に直ぐに使って頂くことができます（常温保存2年間、血液型の適用制約無し）。これにより、従前実施が困難であった外科手術、血液系の慢性疾患の治療、外傷による緊急時の輸血も可能となり、獣医領域での治療も大きく変化することとなります。

ペットの増加は、獣医師と動物病院の増加をもたらし、繁栄と同時に厳しい競争も生みしました。競争は、業界にサービスと技術の進歩を促しましたが、今や業界の分断と再構築は必須の状況です。弊社は、この業界再構築のキーアイテムを『動物用人工赤血球』と考えております。『動物用人工赤血球』は新たな治療のインフラとして動物治療を未踏の高みに引き上げると同時に、これを通じ、動物病院間の競争を制し、クライアントの増加、治療単価の引き上げを通じ、動物病院の収益を安定・向上させ、ひいては携わる獣医師の利益をもたらしキーテクノロジーになるものと確信しております。

弊社は、バイオベンチャーとして設立後5年を迎えます。これまで、事業を進めるための資金支援を各所でお願いして来ましたが、動物治療に理解のあるアナリストは少なく、動物病院の収益に関する知識も限られており、その重要性・可能性を訴えても中々理解は得られませんでした。この過程を通じ、『動物用人工赤血球』の価値、即ち動物とその治療にとっての必要性と病院経営上の重要性をご理解いただけるのは、やはり獣医師の先生方に違いないと考え、本趣意書を作成しました。

弊社は、『動物用人工赤血球』を通じて、動物治療・福祉のみならず、それに携わる業界の再構築の実現を意図しております。獣医師の皆様には、本製品化のための出資をお願いするものではありませんが、それに留まらず、新たなビジネスモデルの構築・収益モデルの実現にも参加していただきたく、ご協力をお願いさせていただきます。

本製品は、動物用医薬品として5年以内の上市を目指しています。治験の実施に向け、ぜひ獣医師の皆様からのご支援をお願いいただければと思います。本事業に興味をお持ちいただけましたら、更に詳しく説明をさせていただきます。ご一報頂ければ幸いです。ご検討の程、よろしくお願い申し上げます。



企業概要

- 【会社名】株式会社オキシキャリア
- 【設立日】2019年5月27日
- 【代表者】代表取締役 山口 智宏（医学博士）
- 【資本金】500万円
- 【関係者】取締役（兼 技術・マーケティング担当） 白石 卓夫
取締役（兼 財務担当） 志村 直幸（公認会計士）
- 【本店所在地】〒110-0005 東京都台東区上野3-5-2 S-1ビル
- 【ウェブサイト】 <https://oxycarrier.co.jp>

事業概要

【主たる事業】動物用人工赤血球（人工酸素運搬体）の開発

【製品概要】

1. ウシ赤血球から高純度でヘモグロビン（Hb）を精製、Hbを脂質膜で被覆したリポソーム型人工赤血球
2. 原料となるウシ赤血球は、と畜牛の廃棄血液を有効利用
3. 製品特徴は、血液型なし、感染性なし、室温で2年間安定、赤血球と同等の酸素運搬能、蓄積性がなく高い安全性
4. 異種動物への適合性が高い（ウシHb人工赤血球をラットやイヌなど異種動物に投与しても、拒絶反応がない）
5. ラットの脱血モデルでの実験で、有効性と安全性を確認
6. ビーグル犬で安全性を確認（データ解析中）

【対象】イヌやネコ、大量出血時の救命、慢性貧血の改善、など、通常の輸血と同様

【知財】基本特許を取得済み

【共同研究】奈良県立医科大学 酒井教授（元早稲田大学で開発の中心）

【競合】動物用人工赤血球としての開発や製品は、現状なし
人では米国で軍事目的の開発ベンチャーあり

【目標】5年後の上市

以上